

2024 年 6 月 7 日

The Emerging Markets Weekly

メキシコ大統領・議会選挙の結果を受けて MXN が急落

新興国市場:先週末 5 月 31 日のアジア時間は中国経済指標の結果が重しとなり、大半が小動き。KRW や INR が軟調。欧米時間、米経済指標の弱めの結果を受けてドルは売られた。東欧通貨を中心とし小幅に反発するも、上昇が目立つ通貨はなかった。BRL は下落。週初 6 月 3 日のアジア時間は先週の流れが続き、小幅に上昇した。KRW が堅調。欧米時間、米 5 月 ISM 製造業景気指数が市場予想を下振れ、米金利低下を背景に新興国通貨は買い優勢。ZAR と RUB は前日比+1.0%超上昇。一方、MXN はメキシコ大統領選の結果を背景に前日比▲3.8%急落した。4 日のアジア時間はドル売りが継続し概ね堅調。THB が上昇した。一方、INR はインド下院選挙を受けて下落。欧米時間、米金利の低下が続くも、大半が軟調。商品市況の下落も資源国通貨の重しに。TRY と ZAR、MXN は前日比▲1.0%以上下落。MXN は一時 4 月 19 日以来の安値をつけた。5 日のアジア時間はまちまち。KRW が上昇する他方、IDR は軟調。欧米時間、米経済指標の強弱入り混じる結果にドルは一時下落もその後反発。新興国通貨の反応はまちまち。MXN は前日比+1.9%上昇。片や ZAR は前日比▲1.2%下落した。6 日、アジア時間は小幅に上昇。THB が全体をけん引した。欧米時間、ECB は市場予想通り利下げを決定するも、タカ派的な利下げと捉えられユーロに連れて東欧通貨は堅調。BRL も鉄鉱石や原油価格の上昇が支えとなり買われた。一方、MXN は前日比▲2.6%下落した。

アジア:5 月 31 日発表の中国 5 月製造業 PMI は 49.5 と 3 か月ぶりに景気拡大・縮小の分け目となる 50 を下回った。中国 5 月非製造業 PMI は 51.1 と 50 を上回るも、市場予想を下振れた。同日公表のインド 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+7.8%と市場予想(同+7.0%)を上回った。3 日公表のインドネシア 5 月消費者物価指数(CPI)は前年比+2.84%と市場予想を下回った。4 日発表の韓国 5 月 CPI は前年比+2.7%と市場予想を下振れた。インド下院選挙が同日開票された。インド人民党(BJP)率いる国民民主主義連合(NDA)は過半数の議席を維持するも、BJP 単独では過半数の議席の確保はできなかった。5 日発表のフィリピン 5 月 CPI は前年比+3.9%と市場予想を下回った。

中東欧・アフリカ:5 月 31 日公表のトルコ 1~3 月期実質 GDP 成長率は前年比+5.7%と市場予想(同+5.8%)を下回った。個人消費が全体をけん引した。南アフリカで 5 月 29 日に実施された総選挙の結果が 6 月 2 日に公表された。得票率はアフリカ民族会議(ANC)が 40.2%と、議席数は下院 400 議席中の 159 議席と過半数を割り込んだ。3 日発表のトルコ 5 月 CPI は前年比+75.45%と前月から加速、市場予想も上回り 2022 年 11 月以来の高水準となった。

ラテンアメリカ:6 月 2 日に実施されたメキシコ大統領および議会選挙は、与党国民再生運動(MORENA)のシェインバウム氏と同党が予想以上の大勝を収め、改憲実施の可能性が意識され MXN は急落、週間で▲5.4%下落した。

金融市場部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 将行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(南アフリカ)

与党 ANC の議席過半数割れが確定

欧州資金部
シニア為替ストラテジスト
中島 將行
masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

連立交渉が焦点に

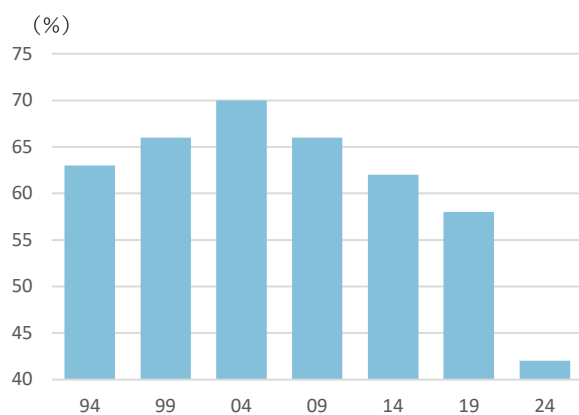
南アフリカで 5 月 29 日に行われた総選挙は、6 月 2 日に最終結果が発表され、与党・アフリカ民族会議(ANC、中道左派)の得票率は 40.2%に留まり、議席数は下院 400 議席中の 159 議席と過半数を割り込んだ(図表 1、2)。2019 年の総選挙での得票率の 57.5%と比較して大幅な低下となった。

これまで南アフリカでは、1994 年のアパルトヘイト廃止・民主化選挙以降、アフリカ民族会議(ANC、中道左派)が政権を独占的に握り続けてきた。しかし、汚職スキャンダル、頻発する停電、失業率の急上昇、暴力犯罪の増加など、数々の問題が有権者を失望させ、ANC は 2004 年の総選挙をピークに議席数を減らし続けてきた。2018 年には汚職問題でジェイコブ・ズマ大統領(当時)が辞任し、故ネルソン・マンデラ氏が自らの後継者に嘱望したとされるシリル・ラマポーザ氏が大統領を務めているが、汚職の撲滅や経済の発展で目立った成果を出せていない。こうした状況下、ANC の議席過半数割れという同国の政治史上、重大な局面変化が訪れた格好だ。

今後は ANC がどの党と連立を組むかが焦点となる。ビジネス寄りの中道政党である民主同盟(DA)との連立となれば、構造改革の進展が期待されるためにマーケットにとってベストシナリオと見られる一方で、急進左派の経済的解放の闘士(EFF)や、汚職問題や政治的対立で ANC から除名処分を受けたズマ元大統領が設立した国民の槍(MK)との連立となれば、市場は拒否反応を示す恐れがある。両党が主張する政策には、白人所有の農地を無償で政府が収用し、黒人小作農に分配する「土地収用」が含まれる。実際に導入された場合、金融市場は、同様の政策を 2000 年に行ったジンバブエのケースを想起すると見られる。ジンバブエは、土地改革実施後、食糧難、ハイパーインフレ、通貨の暴落、資本逃避等を招いた。マーケットの反応も、DA との連立ならポジティブ(ZAR 高)、EFF、MK との連立ならネガティブ(ZAR 安)となる公算が大きい。

ANC は、選挙結果確定から 14 日目となる 6 月 16 日までに連立を組む必要があり、ANC がどことも連立を組むことができず少数与党となる可能性や、9 月にも再選挙実施が発表される可能性まで、様々なシナリオが取りざたされている。

ZAR は 5 月 29 日の総選挙の投開票以降、5 月末までに対ドル 18.3 近辺から 18.8 まで約▲2.7%下落している。最終結果は、世論調査結果とそれほど変わりがないようにも思われるが、「ANC は過半数をそれほど大きく割り込まず、比較的無害な小政党と組んで問題なく連立政権を樹立できる」という見方が選挙前にはあった模様であり、そうした期待が後退したことが背景にあるだろう。当面は、連立交渉を取り巻く不透明感が、引き続き ZAR の不安定化要因となる公算が大きい。

図表 1: 与党 ANC の得票率


出所: 南アフリカ選挙管理委員会、みずほ銀行

図表 2: 2024 年下院議会選挙 投票結果

	得票率 (%)	議席数 (全400議席)
ANC	40.2	159
DA	21.8	87
MK	14.6	58
EFF	9.5	39
IFP	3.9	17
PA	2.1	9
VF Plus	1.4	6
ActionSA	1.2	6

出所: 南アフリカ選挙管理委員会、みずほ銀行

市場概観(インド)

総選挙において、与党連合は予想外に苦戦

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

既報の通り、インドでは 6 月 1 日にかけて下院総選挙が開始された。4 日には開票がスタートした。以下では、総選挙の結果について簡単にレビューしたい。なお、本内容は今週発行した通貨ニュース(*1) (*2) の内容を要約し、加筆修正を加えたものである。また、日本時間 5 日の 6 時 20 分時点で入手可能な情報に基づいている。

1 日夜には出口調査が開始され、調査会社によって集計結果は若干異なるものの、ロイターが複数の調査会社の集計を纏めた報道によると、543 議席のうち、インド人民党 (BJP) を中心とする国民民主同盟 (NDA) が 353~401 議席を獲得したとされていた。市場はこの結果を好感し、3 日のインド市場は株高と金利低下で反応した。

ただし、4 日のインド金融市場では、通貨安・債券安・株安の「トリプル安」が襲った。3 日時点では情報源は出口調査に限られていたものの、4 日には一斉開票が開始されている。先に述べておくが、金融市場の混乱も、こういった「情報の段差」に起因している。

まず、4 日の総選挙関連の報道を確認したい。日本時間 11 時 30 分から開票作業が始まったが、その後現地メディアからは下院の全 543 議席中、BJP を中心とする NDA が 290 議席超を獲得した、との報道があった。過半数は超える見込みであり、ブルームバーグでも「モディ氏の与党連合が大きくリード」とのヘッドラインが流れた。ただ、市場は「トリプル安」で反応。それもそのはずで、上述の通り出口調査においては概ね 350~400 議席を与党連合が獲得する、と報道されていたので、市場では思ったほど与党連合の獲得票が伸びない可能性が意識されたのだろう。特に株式市場は神経質な地合いが目立ち、インド株式の VIX 指数は 2022 年 2 月以来の高水準を記録した(図表 1)。なお、インド 10 年金利も最大で +12bp 程度上昇(債券価格下落)した。ただし、インド準備銀行 (RBI) が強力な為替介入を続けていたこともあり、INR の下落幅は小さいものに留まっている(図表 2)。インド株式に話を戻せば、モディ氏と関係性が深いとされる新興財閥企業や、財政政策の後押しを受ける可能性が高いインフラ関連企業の株式が特に売られており、選挙由来の相場変動だったと評価してよい。

その後各種メディアによって開票速報が流れたが、BJP は 240 議席程度の獲得に留まり、友党を含めてやっと過半数(272 議席)に到達すると予測されている(図表 3)。2019 年選挙と比較しても、獲得票を大きく減らした(図表 4)。よって、BJP は単独での過半数を維持できない見込みだ。即ち友党への配慮は必要不可欠なものとなり、閣僚ポストの明け渡しに加え、各種政策に関しても BJP の思い通りに進められない可能性などが浮上した。BJP は労働や資本、土地に関わる改革を進める方針を示しており、これが期待先行のかたちでインド株式の下支えをしていた経緯がある。このような難しい改革の実現可能性やそのペースに対する疑念が浮上し、インド金融市場が混乱に陥った可能性が高い。BJP は財政健全化を志向しているが、今後支持を回復させるべく、財政拡大路線に舵を切る可能性が警戒されている側面もある。

モディ首相は 4 日夜、「与党連合にとって 3 度目の政権樹立となる吉日だ」と勝利宣言を行い、「絶大な信頼を示した国民に心から感謝する」と有権者に感謝の意を示している。今後、与党連合の他党と連立協議を開始する模様である。モディ氏の首相

続投の可能性が高いものの、今回の選挙結果を受け、その権威は大きく低下した。

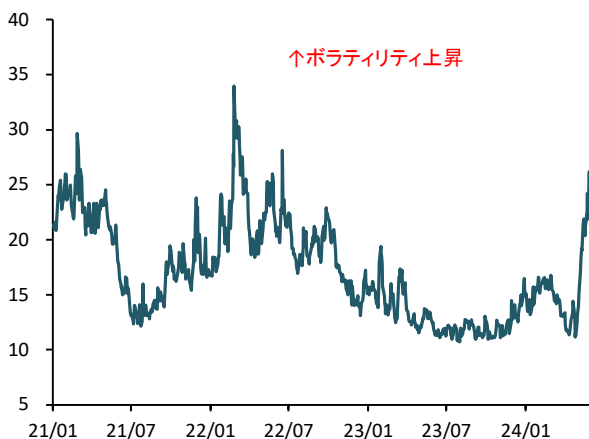
今後のインド金融市場に関しては、短期的には総選挙に関する報道に右往左往される展開が見込まれるが、ある程度一服すれば、元のトレンドに回帰できると想定している。すなわち、株高と金利低下のセットである。インド経済に世界の注目が集まっているのは、必ずしもその元首がモディ氏だからではない。経済成長率や人口動態に加え、製造業のポテンシャルなどに起因する部分も非常に大きい。だからこそ、世界株式指数に占めるウェイトは上昇基調にあり、6 月には新興市場債券指数への組み入れが開始されているのだ。

もちろん、失業問題やインフレ、強権主義など BJP およびモディ氏陣営が抱える問題は非常に多い。特にこの強権主義に関しては、西側諸国との対立の火種になるリスクがある。モディ体制の下では、野党の政治家の逮捕が相次いだことは、本邦でも報じられている通りだ。シーク教の分離主義者がカナダで殺害された事件をめぐる、カナダとの対立が激化したことも記憶に新しいだろう。もし西側諸国が拒否反応を示した場合、インドへの進出を控える国や外国企業が出てきてもおかしくはない。「メイクインインド」の掛け声のもと、外国資本の活用を進めているモディ体制にとっては、外交的失敗は命取りになりかねない。現状まだ市場はそこまで悲観的な見方をしていないように思えるが、長期的には無視できない話題である。

(*1) 詳細は、2024 年 6 月 3 日発行の通貨ニュース、『インド：インド総選挙～モディ体制 3 期目入りが確実～』をご覧ください。

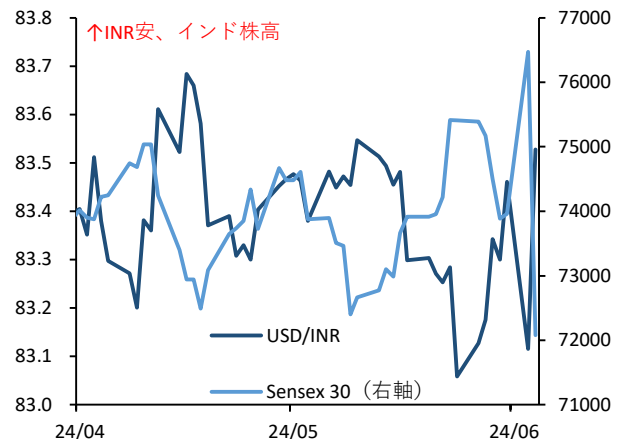
(*2) 詳細は、2024 年 6 月 5 日発行の通貨ニュース、『インド：インド総選挙～メキシコに続き、トリプル安がインド市場を襲う～』をご覧ください。

図表 1: Nifty 50 の Vix 指数の推移(日中高値)



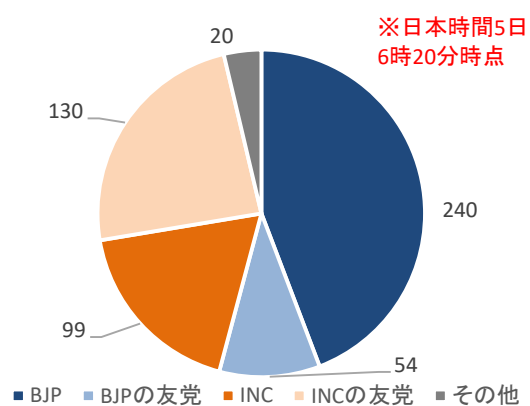
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: INR 相場と Sensex 指数の動向



出所: Macrobond、みずほ銀行

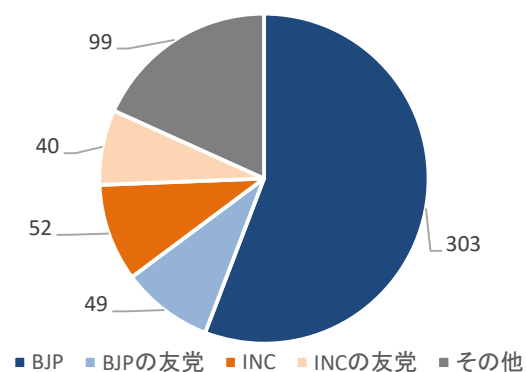
図表 3:ブルームバーグによる獲得議席予測



出所: Bloomberg、みずほ銀行

※BJP は与党インド人民党、INC は最大野党国民会議派を示す

図表 4: 前回 2019 年選挙における各党の獲得議席数



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(メキシコ)

MXN 急落の背景と今後の展望～強すぎる与党連合が資産価格の逆風に～

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

既報の通り、メキシコでは 2 日に大統領選挙および議会選挙が開催された。以下では、選挙の全体像および MXN 急落の背景を説明したい。なお、本内容は今週発行した通貨ニュース(*1) (*2)の内容を要約し、加筆修正を加えたものである。また、以下の内容は、日本時間 4 日の午前 6 時時点で入手可能な情報に基づいている。

日本時間 3 日の昼頃には、大統領選挙の出口調査に関する報道がなされた。3 つの出口調査によると、与党国民再生運動(MORENA)のシェインバウム氏が 55%～63%の票を獲得したことがブルームバーグによって報じられた。図表 1 に示す通り、アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール現大統領(以下、アムロ)の正統な後継者たる同氏の支持率は高い状態が続いており、概ね想定内の結果と考えてよいだろう。出口調査が示す得票率も、事前の世論調査などと整合的である。

シェインバウム氏の当選確実が報じられた段階では、MXN は対ドルでやや買われていた。しかしながら、3 日の日本時間 16 時以降に急激に売り戻され、20 時 30 分頃には 17.7 付近に下落した。その後、米金利低下を受けやや買い戻されたものの、日付が変わると売りに晒され、日本時間 4 日の午前 3 時頃には、4 月 19 日以来の安値となる 17.75 付近に下落した。そのまま安値圏で引けており、前日比でも▲3.82%と大きな値動きとなった。しかも、4 月 19 日の値動きは地政学リスクを嫌気した瞬間的なものであり、実質的には 2023 年 11 月以来の安値水準と表現したほうが実態に即している。加えて、メキシコ株も、大きな調整を強いられている。

3 日に MXN が大きく売られた背景としては、様々な報道が出ている通り、大統領選挙と同時に開催された議会選挙において、MORENA を中心とした与党連合の予想以上の大勝が報じられたことが挙げられる。与党連合が上院下院の多数派となることは事前にも予想されていたが、選挙管理当局の速報値(3 日の 15 時頃公表)に基づけば、下院では 3 分の 2 の議席を確保し、上院では少なくとも過半数を確保する見通しが示された。よって、与党連合が両院双方で 3 分の 2 を確保する可能性が浮上した、ということだ。

この「3 分の 2」が意味するのは、与党連合が憲法改正を実施できる、ということである。シェインバウム氏は、(おそらく意図的に)具体的な公約などを示してはおらず、アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール現大統領(以下、アムロ)の流れを引き継ぐ姿勢を打ち出している。2024 年 2 月 5 日に、アムロ大統領は司法や選挙法、年金制度などに関わる憲法改正案を国会に提出しており、この内容が今になって蒸し返されているのが現状だ。同改正案は、現状与党連合が改憲に必要な議席を有していないため可決されていないものの、今後実現に至る可能性が市場では明確に意識されている。

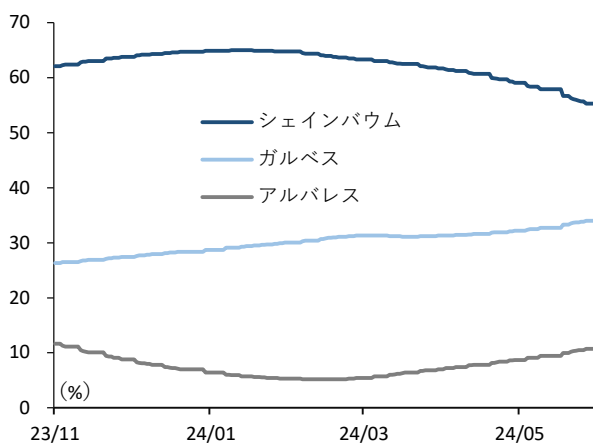
特に市場が意識しているのが、年金支給拡大や最低賃金引き上げなどに代表される、社会福祉の拡大である。アムロ体制では、大衆迎合的な政策が取られた結果、財政収支が悪化した。改憲による財政悪化懸念も、MXN の売り材料となった模様だ。また、同改正案では国営企業の権限強化や独立自治規制機関廃止なども盛り込まれており、国家による市場経済への介入も嫌気されている模様である。シェイン

バウム氏は大統領選挙勝利が確実にした後、「財政責任を果たす」「中央銀行の自主性を尊重する」としているものの、市場は懐疑的な目を向けている。今後に関しては、選挙管理当局による最終集計結果を待つ流れとなるだろう。足許では、キャリートレードが依然流行する中で、投機筋による MXN のロングポジションが積み上がった状態にあった(図表 2)。3 日の値動きは、これらの巻き戻しが発生した可能性があるだろう。

(*1)詳細は、2024 年 6 月 3 日発行の通貨ニュース、『メキシコ:大統領選挙レビュー～想定通りシェインバウム氏が当選へ～』をご覧ください。

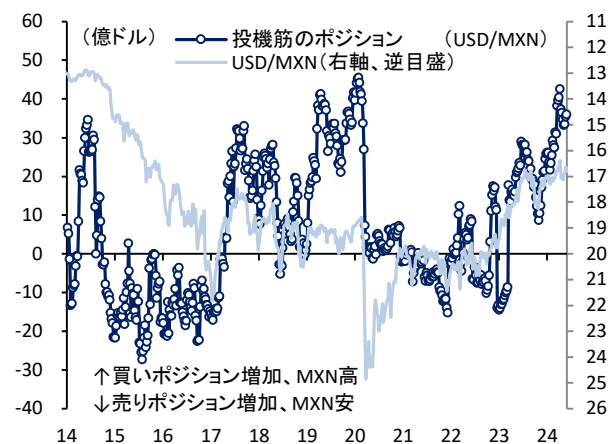
(*2)詳細は、2024 年 6 月 4 日発行の通貨ニュース、『メキシコ:MXN 急落の背景と今後の展望～強すぎる与党連合が資産価格の逆風に～』をご覧ください。

図表 1: 大統領選挙の支持率トラッカー



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: IMM 通貨先物における MXN のポジション



出所: CFTC、Bloomberg、みずほ銀行 ※Non-Commercial

市場概観(新興国)

川上部門におけるインフレ圧力が台頭

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数(PMI)によれば、5 月製造業 PMI は 50.9 と 4 月(50.3)から上昇し、4 か月連続で中立水準(=50)超えを維持した。先進国(48.6→50.0)は新規受注や生産を中心に上昇したものの、20 か月連続で中立水準割れを記録。片や、新興国(52.0→52.0)はまちまちの結果だったが、16 か月連続で中立水準超えを維持した(図表 1、2)。また、グローバル非製造業 PMI(52.7→54.1)は 7 か月連続で上昇。内訳を確認すると、先進国(52.3→53.9)、新興国(53.6→54.6)といずれも好調だった。

これらを合わせたコンポジット PMI は 53.7 と前月(52.4)から 7 か月連続で上昇、7 か月連続で中立水準超えを維持。世界の GDP 成長率は 10~12 月期に+2.72%(前期比年率)と、前四半期から伸びが減速した(図表 3)。PMI の推移を確認する限り、1~3 月期および 4~5 月は伸びが加速した可能性が高い。

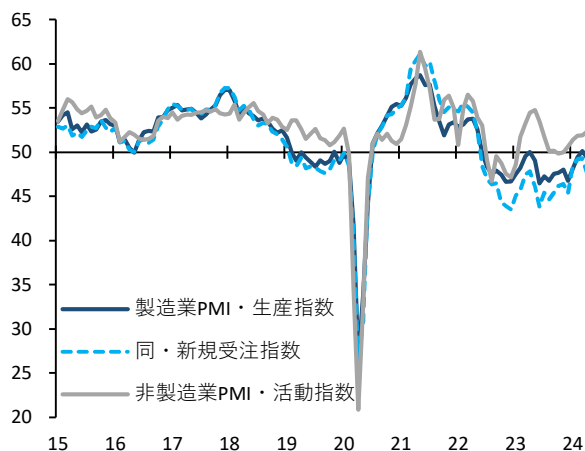
5 月グローバル製造業 PMI の特徴は、やはりコスト増加の傾向であろう。仕入れ価格、出荷価格は、5 月に揃って上昇、前者は 15 か月ぶりの高水準となった(図表 4)。公表元も、「投入コストと販売価格の上昇が強まる」と警戒感を示している。供給網の目詰まりが一服し財部門のデフインフレの流れがほぼ消失する中で、最近では資源価格上昇や需要の底入れが、むしろインフレ懸念を誘発している。仕入れ価格指数の上昇がより目立つことから、川上部門での物価上昇が始まっている可能性が高いといえる。足許では OPEC プラスの減産縮小などを受け資源価格は下落基調だが、目先は供給面・需要面双方からのインフレ圧力に身構える必要がある。

製造業 PMI の構成指数別では、全項目が PMI の上昇に寄与した。生産指数は先進国主導で上昇、5 か月連続で中立水準を超えた(図表 5)。新規受注も先進国が上昇をけん引し、4 か月連続で中立水準を超えた(図表 6)。また、雇用指数は新興国主導で上昇、3 か月連続で中立水準超えを記録(図表 7)。一方で、購買品在庫はまちまちの結果となり、2 月には 16 か月ぶりに中立水準超えを記録も、その後は 3 か月連続で中立水準を割り込んでいる(図表 8)。見通しは改善しているが、在庫取り崩しの流れは収まっていない。また、入荷遅延指数(逆インデックス)は 4 か月ぶりに低下したが、4 か月連続で中立水準を超えた。供給制約は広がっていないが、一層の改善余地には乏しい。

個別の新興国では、韓国製造業 PMI の好調さに着目したい。5 月には、51.6 と 4 月の 49.4 から大きく上昇、ちょうど 2 年ぶりの高水準となった。構成項目を確認すると、生産指数(50.1→53.3)の改善が目立つ。これは、約 3 年ぶりの高水準である。半導体市況の回復とともに韓国の貿易収支は改善傾向にあり、韓国銀行(中央銀行、BOK)は 5 月の金融通貨委員会において本年の成長率見通しを引き上げている。加えて、仕入れ価格指数の伸びからは川上におけるインフレ懸念が抱かれてしまい、総じて利下げ開始の後ろ倒しのリスクが高まっているように思える。

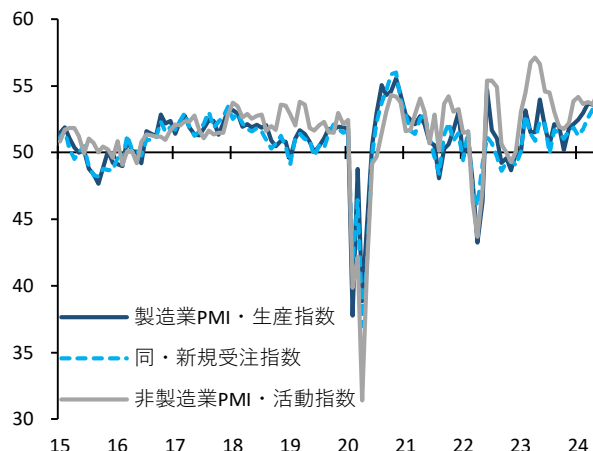
(注)各国・地域別の PMI のグラフについては、6 月 6 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 先進国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 新興国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



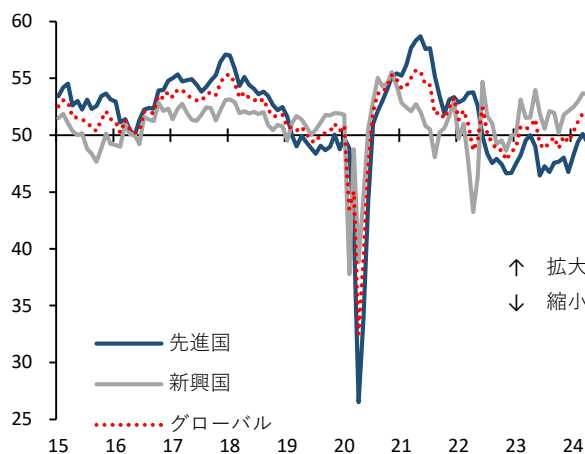
出所: S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI・価格指数



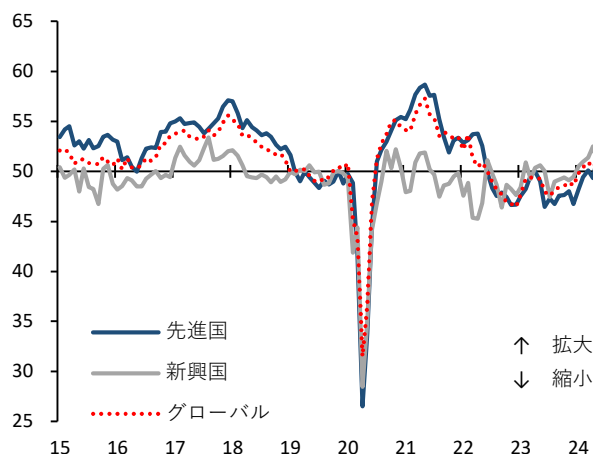
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI・生産指数

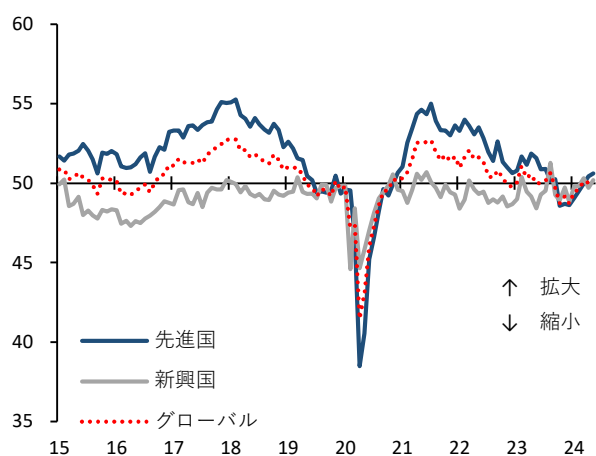


出所: S&P Global、みずほ銀行

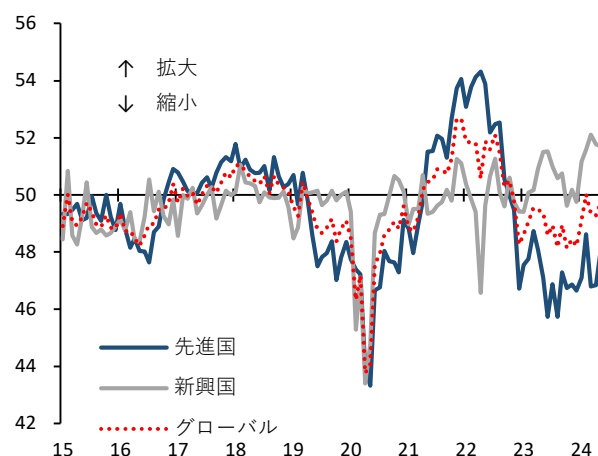
図表 6: 製造業 PMI・新規受注指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・雇用指数


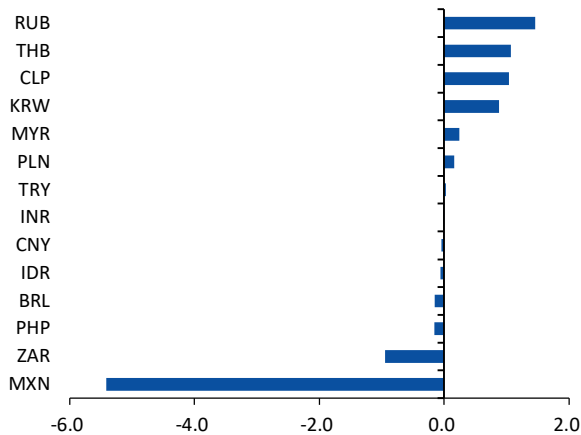
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 8: 製造業 PMI・購買品在庫指数


出所: S&P Global、みずほ銀行

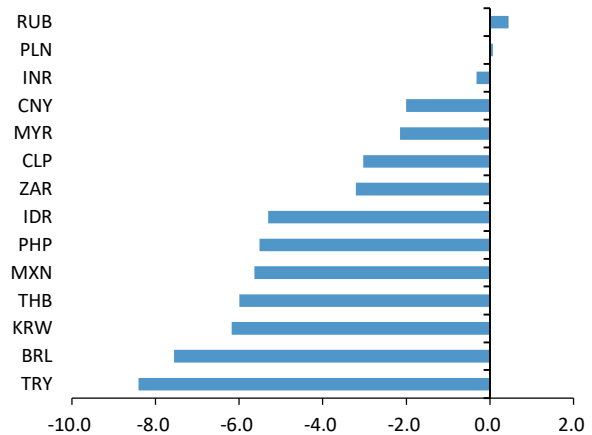
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



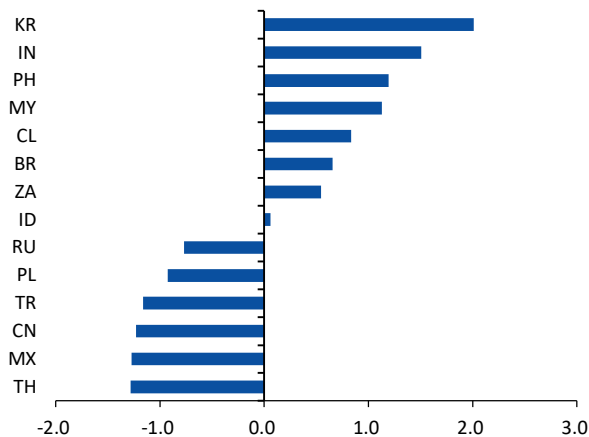
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



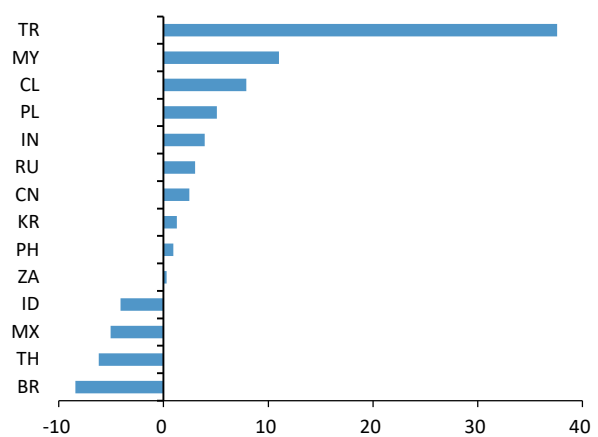
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



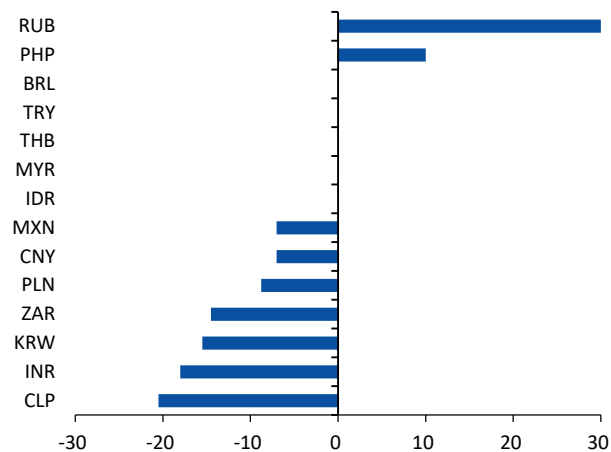
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

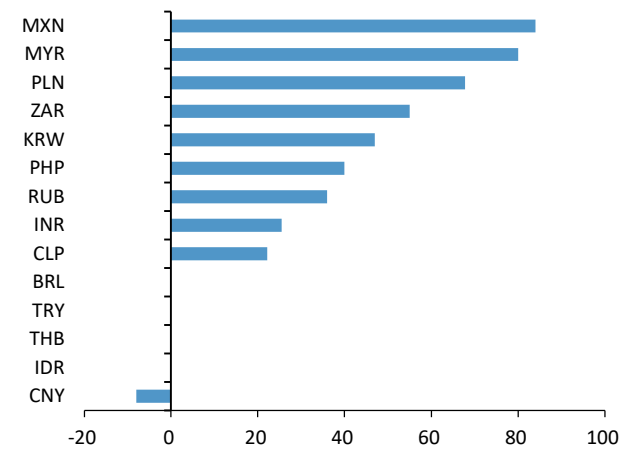
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

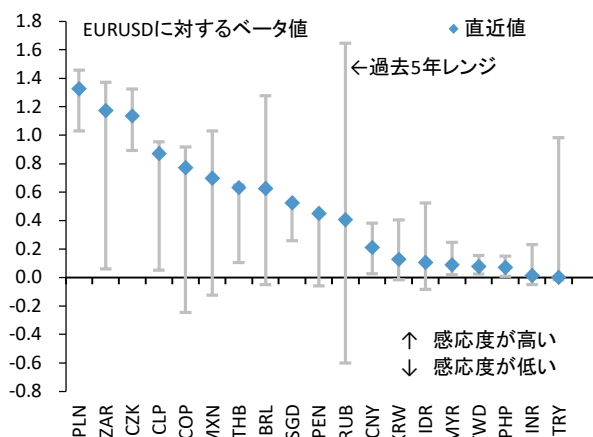
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

チャート集

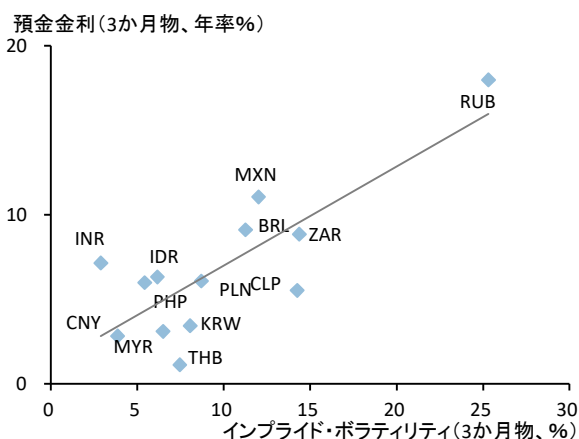
主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



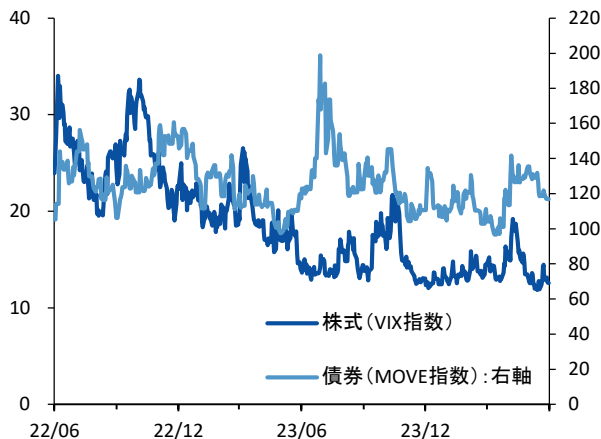
EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



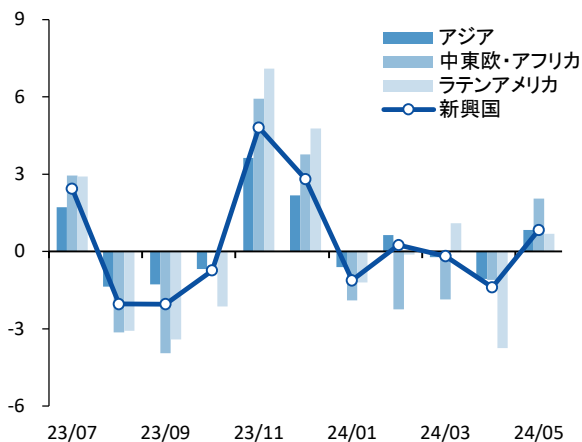
新興国の預金金利と為替ボラティリティ



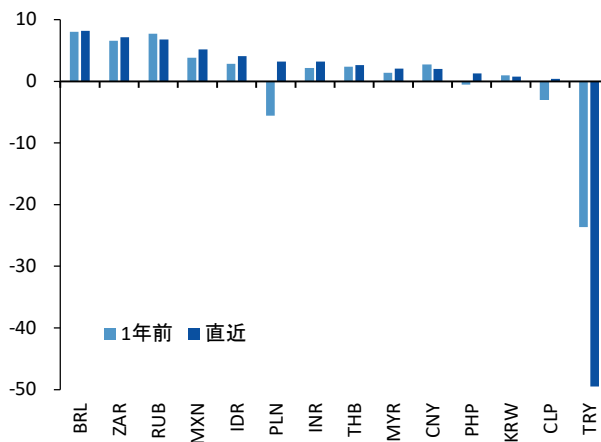
株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
6月3日 (月)	中国	Caixin中国製造業PMI	51.6	51.7	51.4	--
3日 (月)	インドネシア	CPI(前年比)	3.0%	2.8%	3.0%	--
3日 (月)	シンガポール	購買部景気指数	--	50.6	50.5	--
4日 (火)	韓国	CPI(前年比)	2.8%	2.7%	2.9%	--
5日 (水)	韓国	GDP(前年比)	3.3%	3.3%	3.4%	--
5日 (水)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	4.0%	3.9%	3.8%	--
5日 (水)	中国	Caixin中国PMIサービス業	52.5	54.0	52.5	--
5日 (水)	シンガポール	小売売上高(前年比)	1.9%	-1.2%	2.7%	2.8%
6日 (木)	台湾	CPI(前年比)	2.1%	2.2%	2.0%	1.9%
7日 (金)	タイ	CPI(前年比)	1.2%	--	0.2%	--
7日 (金)	インド	RBI政策金利	6.50%	--	6.50%	--
7日 (金)	台湾	貿易収支	\$6.75b	--	\$6.46b	--
7日 (金)	中国	貿易収支	\$70.00b	--	\$72.35b	--
10日 (月)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	2.4%	--
11日 (火)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	\$6931.4m	--
11日 (火)	フィリピン	貿易収支	--	--	-\$3181m	--
12日 (水)	中国	PPI(前年比)	--	--	-2.5%	--
12日 (水)	中国	CPI(前年比)	--	--	0.3%	--
12日 (水)	タイ	タイ中央銀行指標金利	--	--	2.5%	--
12日 (水)	インド	CPI(前年比)	--	--	4.8%	--
12日 (水)	インド	鉱工業生産(前年比)	--	--	4.9%	--
13日 (木)	台湾	CBC指標金利	--	--	2.00%	--
14日 (金)	インド	卸売物価(前年比)	--	--	1.3%	--
中東欧・アフリカ						
6月3日 (月)	トルコ	CPI(前年比)	74.8%	75.5%	69.8%	--
3日 (月)	トルコ	PPI 前年比	--	57.7%	55.7%	--
4日 (火)	南ア	GDP(前年比)	0.8%	0.5%	1.2%	1.4%
6日 (木)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	10.3%	8.3%	11.1%	--
6日 (木)	南ア	経常収支(対GDP比)	-1.6%	-1.2%	-2.3%	--
7日 (金)	ロシア	主要金利	16.0%	--	16.0%	--
10日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	--	4.3%	--
10日 (月)	トルコ	経常収支	--	--	-4.54b	--
11日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	--	--	-6.4%	--
13日 (木)	ロシア	貿易収支	--	--	18.8b	--
ラテンアメリカ						
6月4日 (火)	メキシコ	送金総額	\$5200.0m	\$5422.3m	\$5020.7m	--
4日 (火)	ブラジル	GDP(前年比)	2.3%	2.5%	2.1%	--
4日 (火)	メキシコ	総設備投資(季調前、前年比)	3.0%	3.0%	12.5%	12.8%
5日 (水)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	8.7%	8.4%	-2.8%	--
6日 (木)	ブラジル	貿易収支(月次)	\$8500m	\$8534m	\$9041m	--
7日 (金)	ブラジル	FGVインフレ率IGP-DI(前月比)	0.7%	--	0.7%	--
7日 (金)	メキシコ	CPI(前年比)	4.8%	--	4.7%	--
11日 (火)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	--	--	-3.0%	-3.4%
11日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	--	--	3.7%	--
13日 (木)	ブラジル	小売売上高(前年比)	--	--	5.7%	--

注: 2024 年 6 月 7 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2024年 1～5月（実績）	SPOT	2024年 6月	9月	12月	2025年 3月	6月
対ドル								
エマー・ジングアジア								
中国人民元	(CNY)	7.1021 ~ 7.2497	7.2450	7.25	7.20	7.15	7.10	7.05
香港ドル	(HKD)	7.7964 ~ 7.8387	7.8097	7.82	7.80	7.80	7.78	7.77
インドルピー	(INR)	82.646 ~ 83.575	83.478	84.5	82.8	84.0	82.2	80.9
インドネシアルピア	(IDR)	15430 ~ 16288	16263	16150	15950	16000	15800	15600
韓国ウォン	(KRW)	1290.40 ~ 1400.00	1365.78	1360	1340	1350	1330	1310
マレーシアリング	(MYR)	4.5892 ~ 4.8053	4.6950	4.72	4.68	4.70	4.65	4.60
フィリピンペソ	(PHP)	55.300 ~ 58.750	58.608	57.4	57.0	57.4	56.5	56.0
シンガポールドル	(SGD)	1.3193 ~ 1.3670	1.3457	1.35	1.35	1.37	1.34	1.33
台湾ドル	(TWD)	30.663 ~ 32.664	32.271	32.0	31.5	31.8	31.3	30.5
タイバーツ	(THB)	34.11 ~ 37.18	36.42	36.3	35.4	36.2	35.0	34.5
ベトナムドン	(VND)	24260 ~ 25477	25427	25200	24800	25200	24900	24700
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	87.4000 ~ 95.4670	89.0823	91.0	92.0	93.0	94.0	95.0
南アフリカランド	(ZAR)	18.0290 ~ 19.3899	18.9748	18.9	19.1	19.2	19.3	19.4
トルコリラ	(TRY)	29.6646 ~ 32.8170	32.2890	32.0	31.5	31.0	30.5	30.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.8314 ~ 5.2869	5.2547	5.20	5.16	5.10	5.12	5.15
メキシコペソ	(MXN)	16.2616 ~ 18.2137	17.9338	17.2	17.4	17.5	17.7	18.0
対円								
エマー・ジングアジア								
中国人民元	(CNY)	19.830 ~ 22.066	21.483	21.79	21.67	22.10	22.39	22.70
香港ドル	(HKD)	18.032 ~ 20.437	19.919	20.20	20.00	20.26	20.44	20.59
インドルピー	(INR)	1.695 ~ 1.920	1.864	1.87	1.88	1.88	1.93	1.98
インドネシアルピア	(100IDR)	0.913 ~ 0.984	0.957	0.978	0.978	0.988	1.006	1.026
韓国ウォン	(100KRW)	10.820 ~ 11.580	11.392	11.62	11.64	11.70	11.95	12.21
マレーシアリング	(MYR)	30.593 ~ 33.519	33.222	33.47	33.33	33.62	34.19	34.78
フィリピンペソ	(PHP)	2.541 ~ 2.765	2.666	2.75	2.74	2.75	2.81	2.86
シンガポールドル	(SGD)	106.65 ~ 117.51	115.63	116.69	115.90	115.75	119.10	120.30
台湾ドル	(TWD)	4.576 ~ 4.894	4.823	4.94	4.95	4.97	5.08	5.25
タイバーツ	(THB)	4.096 ~ 4.342	4.271	4.35	4.41	4.36	4.54	4.64
ベトナムドン	(10000VND)	0.5807 ~ 0.6291	0.6120	0.63	0.63	0.63	0.64	0.65
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	1.552 ~ 1.787	1.747	1.74	1.70	1.70	1.69	1.68
南アフリカランド	(ZAR)	7.588 ~ 8.664	8.198	8.36	8.17	8.23	8.24	8.25
トルコリラ	(TRY)	4.538 ~ 4.945	4.806	4.94	4.95	5.10	5.21	5.33
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	28.829 ~ 31.200	29.586	30.38	30.23	30.98	31.05	31.07
メキシコペソ	(MXN)	8.297 ~ 9.455	8.680	9.19	8.97	9.03	8.98	8.89

注: 1. 実績の欄は 2024 年 5 月 31 日まで。SPOT は 6 月 7 日の 7 時 10 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。